

事務事業チェックシート

事務事業No

事業名

[事業基本情報]

979

観光案内事業

[長期総合計画]

分野別目標	1	安定した雇用を生み出す産業が元気なまち
政策	4	観光の稼ぐ力の強化
施策	1	観光客受入体制の整備
取組方針	2	観光基盤の充実

事業区分(1)	事業経費	○	管理経費	
	その他			
事業区分(2)	自治事務	○	法定受託事務	
	その他			
会計・ 予算区分	会計	一般会計		
	款	商工費		
	項	観光費		
	目	観光振興費		
	大事業	観光振興事業		
	中事業	観光案内事業		

事業種別	継続		関連個別計画			
事業年度	無し	～	無し	担当課・担当課長・Tel	観光課	谷 昌樹 435-1234
事業実施の根拠法令			関連課			

1 事業内容

事業目的	(「誰・何」をどういう状態にするための事業か)		全体事業概要			
	観光客をスムーズに目的観光地へ案内したり、和歌山市の魅力ある観光スポットを紹介できるようにする。		JR和歌山駅・南海和歌山市駅・和歌山城にある観光案内所の運営、まちなか観光案内所の運営を行うことで、観光客の市内周遊長期滞在を促進する。			
事業内容		令和02年度	令和03年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度
		○JR和歌山駅・和歌山城にある観光案内所の運営 ○まちなか観光案内所の運営	JR和歌山駅・和歌山城にある観光案内所の運営、まちなか観光案内所の運営	JR和歌山駅・和歌山城にある観光案内所の運営、まちなか観光案内所の運営	JR和歌山駅・和歌山城にある観光案内所の運営、まちなか観光案内所の運営	JR和歌山駅・和歌山城にある観光案内所の運営、まちなか観光案内所の運営

2 事業コスト

事業費等(千円)	令和02年度		令和03年度		令和04年度		令和05年度		令和06年度		
	当初予算	決算	当初予算	決算	当初予算	決算	当初予算	決算	計画	決算	
事業費	7,721	7,721	7,715	7,715	7,561	7,561	7,654	0	7,654	0	
伸び率(%)	△28.3%	△28.3%	△0.1%	△0.1%	△2%	△2%	1.2%	△100%	0%	0%	
人件費	正規職員	1,513	1,513	1,474	1,474	1,347	1,347	1,347	0	1,347	0
	正規職員以外	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	小計	1,513	1,513	1,474	1,474	1,347	1,347	1,347	0	1,347	0
国庫支出金	0	0	3,857	3,857	3,780	3,780	3,827	0	3,827	0	
県支出金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
市債	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
一般財源(税等)	7,721	7,721	3,858	3,858	3,781	3,781	3,827	0	3,827	0	
所要人数(人)	正規職員	0.19	0.19	0.19	0.19	0.18	0.18	0.18	0.00	0.18	0.00
	正規職員以外	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
主な予算内訳	観光案内業務委託料7,654千円										

3 目標及び実績

活動指標	指標名	単位	令和02年度	令和03年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度
			目標値	実績値	達成度(%)	目標値	実績値
活動指標	観光案内所数	箇所	2	2	2	2	2
			2	2	2	2	2
			100%	100%	100%	%	%
	まちなか案内所数	箇所	25	16	25	16	25
			16	16	16	16	16
			64%	64%	64%	%	%
成果指標	年間観光客数(暦年)	千人	7,030	4,468	7,060	5,629	7,120
			7,060	4,653	7,090	5,629	7,120
			63.6%	65.9%	79.4%	%	%
	観光案内所での案内件数(暦年)	人	150,000	9,897	75,000	10,852	75,000
			75,000	12,816	75,000	10,852	75,000
			6.6%	8.5%	8.5%	%	%

4 事業の評価

評価基準					
[妥当性]事業のニーズはあるか		増加している	○	横ばい	減少している
[妥当性]事業手段は妥当か		現行の手段でよい	○	一部見直しが必要	見直しが必要
[妥当性]官民の役割は妥当か		市が行うべき	○	他の主体との協働も可能	市が行う必要性は薄れている
[妥当性]緊急的に取り組む必要があるか		急いで取り組む	○	中長期的に取り組む	緊急性は薄い
[有効性]更に効果が期待できるか	○	できる		あまりできない	できない
[有効性]成果目標はどの程度達成しているか		達成している (90%以上)		おおむね達成 (70~90%未満)	○ 達成していない (70%未満)
[有効性]上位施策への貢献度	○	重要かつ高い貢献度がある		一定の貢献度がある	貢献度は低い
[効率性]事業費を抑制できるか		できない	○	制約はあるが可能性はある	できる
[効率性]受益者負担の見直し		適正	○	負担は求められない	見直しが必要

5 今後の方向性 (担当課評価)

事業内容の方向性	充実			○	
	現状維持				
	縮小				
	廃止				
		ゼロ	縮小	現状維持	拡大
コスト投入の方向性					

担当課評価の根拠	新型コロナウイルス感染症の影響により、案内件数は以前と比較が少ないが、コロナが収束傾向となり、今後インバウンド回復が見込まれ、大阪・関西万博の開催も控えている中、本市への来訪者の満足度を高めるため、より充実した案内ができるよう推進体制の在り方の検討を含め取り組む必要がある。
見直し・改善内容	多言語案内ツールの充実等により、観光案内所における外国人観光客への対応を強化していくなど、大阪・関西万博に向け増加が予想される観光客の受入体制強化に努める。